

まちの玄関口である
JR足利駅前の
活性化を！



金子 裕美
議員

問 (仮称) 足利市移住・定住相談センターをJR足利駅構内へ設置するが、これを契機に駅前の活性化が期待される。駅前広場を再整備する場合、どのような内容を検討していくのか。

都市建設部長

市民の利便性や観光客の回遊性向上などを図るため、利用者ニーズに合わせた駐車場等の動線の整理、バス乗り場の適正な規模への変更、老朽化した駐輪場の整備、イベント広場の創出、駅及び周辺施設のバリアフリー化などを検討したい。



▲JR足利駅の駅前広場

◆多様な学びの場と子供の居場所

問 子どもがフリースクールに通う場合、学校への出席扱いとすることについて、本市として統一した対応はできないか。

教育長

フリースクールへの登校を学校の出席扱いとするためには、国が示す一定の要件を満たす必要がある。現在、出席扱いとすることがどうかについては各校長の判断に任されているが、国の要件を踏まえ、校長と教育委員会でともに検討していきたい。

移住・定住政策に
ついて問う！



小林 貴浩
議員

問 (仮称) 山下町住宅団地整備事業は、移住・定住戦略として定住人口増加も期待されているが、現在の進捗状況と今後の進め方について聞きたい。

市長

これまででは測量や地質確認等調査を実施するほか、若者世帯や子育て世帯の移住・定住に結びつく魅力的な整備内容とするため、若手職員による研究チームで検討を重ねてきた。今後の整備や分譲に当たっては、豊富な知識と経験を持つ民間事業者と緊密に連携を図り、早期販売に向けて着実に事業を進めていく。



▲(仮称)山下町住宅団地整備予定地

◆高齢者スポーツ大会の誘致

問 近年、種目別・年代別に競技するマスターズ大会の参加者がふえている。全国大会など高齢者スポーツ大会の誘致を積極的に行い、宿泊や観光にもつなげるべきと考えるがどうか。

教育次長

平成26年開催のねりんピック栃木は県内に大きな経済効果をもたらした。大会を誘致することで多くの方に本市の魅力を感じていただくことは、観光や宿泊等の地域の活性化につながるため、競技団体と連携を図り検討していく。

全てのひとの共生社会
を目指して、
手話言語条例の制定を！



尾関 栄子
議員

問 全国手話言語市区長会が設立され、県内では13市が入会し、足利市長も入会。日光市が条例制定し、鹿沼市、栃木市が制定予定。足利市も手話言語条例制定へと踏み出すべきではないか。

市長

手話が必要な方たちがこのまちで快適に暮らしていくという視点での取り組みが一番大事であり、条例の制定について必要があるかどうか、他市の状況も見ながら今後検討していきたい。



◆太陽光発電

問 市内の住宅密集地に太陽光発電が目立つようになってきた。市は条例により指導と助言を行い、施工業者、事業者に対して、あくまでも住民の合意を得た上で、事業を進めるようにすべきではないか。

都市建設部長

条例では事業区域の面積が1千平方メートル以上の場合、事前の届出を義務づけており、条例に基づき設置事業者に対して適切に指導していく。